

国際経済学科 I

石崎 麻有子

人によるかもしれないけど、私は、卒論は山登りみたいなものだと思います。でも下山の辛さがな
いぶん、山登りよりも楽かもしれません。

最初は意気込みます。「がんばって書くぞー」、「早く仕上げるぞー」って。でも、なかなか思うよう
に進みません。正直、2 合目くらいでもう辛いです。そして、下準備を怠って無鉄砲に進もうとする
と痛い目をみます。先生にめちゃくちゃ言われます。でもそれも、あとで苦勞しないための愛のムチ
です。山登りは油断大敵だから。

休み休み、少しずつ進んでいったら、頂上が見えてきます。「あっ、もうすぐ着くんじゃん？」って
思います。いいえ、辛いのはここからです。山頂が見えているようで遠い。歩いても歩いても近づか
ない。むしろさっきより遠く見える…。体力も気力もうもたない！ってなってきます。でも大丈夫、
進んでることは確かだから。諦めないでください。というか、せっかく登ってきたのに引き返すのは
勿体ないと思います。

最後のほうは傾斜が激しくて、辛くなってきます。でも、先生は必ず手を貸してくれます。だから、
先生とのコミュニケーションを大切に一步一步進んでください。

いよいよもうすぐ頂上！というところまで来ると、少し平坦な道が続きます。なんとももどかしい
です。参考文献の書き方が違う、脚注つける、もっとキレイにレイアウトしろ…細かいことたくさん
言われます。でも、もうほぼ頂上だから耐えてください。

いよいよ山の頂に達したときは、なんとも爽快です。達成感、充実感、安堵感、解放感…たくさん
の素敵な感情が押し寄せてくるでしょう。そして、ここまでがんばれば、本当の登山のように下山の
心配ありません。あとは羽を伸ばしてください。

登っている間は辛いことばかりじゃなく、順調に進んで楽しいと感じることもあると思います。で
も、辛いことのほうが大きく感じるかもしれません。それでも、忘れちゃいけないのは、先生も一緒
に付き添ってくれているということです。先生は本当に熱心に指導してくれます。だから先生のため
にも諦めないであげてください。友達もいます。共に励まし合い、協力し合ってください。

私の場合はこうで、なんとも順調に山頂に達する人もいるかもしれませんが、辛くなったとき、「な
んでこんなことしてるんだろう」って思ったときは是非思い出してみてください。挑戦することは、
しないよりかは、必ずそのぶんのプラスなことが得られると思います。

って、達成感はあるけど、実はそこまで脅すほど辛いものじゃないですけどね。楽しんでやってくださ
い！

松村 裕紀

藤井ゼミ 4年松村裕紀です。これから1年間様々な荒波にもまれるであろうみなさんに、簡単ではありますがメッセージを送りたいと思います。

・卒論について

3年生のみなさんは12月に行われる合同ゼミが終わり、テーマ設定に悩みが尽きないかと思えます。私も同じでした。

テーマさえ決まってしまうと、5合目まで来たといっても過言ではありません。私は他のゼミ生と比べテーマ設定に時間を割きすぎました。日本はもちろんのこと世界の社会情勢、経済情勢にはできるだけ目を向け情報を取り入れることが重要です。

卒論作成にあたって、藤井先生を含め大学の先生は大いに利用してください。利用と言うとやや語弊があるかもしれませんが、言わずもがな大学の先生はその道のプロフェッショナルであり論文作成のプロでもあるのです。私も頭では理解していたのですが、実際アドバイスを頂く機会があると、その的確な指導や高度な判断力には圧倒されてしまいました。卒論は自分一人だけの力では絶対に完成できません。しかし自分の力で道を切り開いていかないと先には進めません。当学部では、大卒資格を得るために卒論の執筆は強制ではありません。ですが、苦勞しながらやり遂げたことは必ず自分の糧となるはずで、最後まであきらめずに頑張ってください。

・ゼミ活動について

とにかく楽しんでください。大学3年の後期になると、授業量も減り就活等で大学の友人と会う機会も少なくなります。4年での授業はゼミのみになる人が多くなります。

そんな中でも、藤井ゼミでは気の合うメンバーと授業で毎週会いますし、飲みに行ったり、夏合宿に参加することでいろいろな思い出ができます。大学生活を活かすも殺すも自分次第です。大学生活をより良いものにしたいと考えるのであれば、ゼミを大いに役立ててください。

・就職活動について

なによりも自分に自信を持つことが一番大事です。特別アドバイスできることはありませんが、私が就職活動を通して感じたことをいくつか挙げたいと思います。

第1に企業選びについてですが、これについてのアドバイスは不可能に近いです。ひとつ言えることがあるとすれば、業界研究は絶対に怠らないようにしてください。例えば私が志望していた金融業界にも多くの異なる業種があります。銀行、保険、証券、ノンバンク、リース、政府系金融機関があり、そこからどんな会社があるかを見ていくと…もう限がありません。気づいたらこの会社の選考活動が終了していた、なんてことはないようにしてください。また、企業選びに際して、藤井ゼミ OBの木村さんの言葉を参考にするといいでしょう。

就職先の選定は何よりも本人の意思が最も重要です。最終的には本人が決断することですから。職業人として社会とかわりを持つには、常にその人の「志」が問われます。志については、具体的に3つのことが挙げられます。

1. 何になりたいのか（具体的にどういう仕事がしたいのか）
2. どのような人間になりたいか
3. 社会にどう貢献したいか

検討に際して、ご参考までに以下のことを実践してみたいかでしょうか。

まず自分の「志」とは何かを問いかける。



問いかけた後で、それぞれの会社の経営理念とトップの言葉を確認する。経営理念は、なるべく手書きしてみる。それを何度も繰り返す。



自分の志はどちらの会社に共感できたでしょうか。

今思えば、就職活動はととても有意義であったと感じています。決して妥協せず最後まで頑張ってください。

就活と卒論を終えて

地引 絵里江

人にアドバイスができるほどしっかりとした就職活動をしたわけではないけど、社会人になるまであと3か月を切った今、就職活動を考えると、やはり自分でしっかりと自分に合った会社を選ぶことが重要だと思う。私の会社は職業柄、内定期間中からたくさんの資格修得を求められる。現に先月1つ目の資格を無事に習得し、今は来月以降のさらなる資格修得の為の学習を始めている。こうした学習を就職活動終了以降の残り少ない学生生活中にやらなければならないのは、精神的にも非常にきつい。たくさんの誘惑が多い中こうした学習を頑張れるのは、自分の選んだ仕事のためだからこそであると思う。就職活動の際、自分でしっかりと自分に合った会社を選んで会社を決めるためには行動を起こすことが大事である。面倒くさがらずにまずは何でも参加してみたり、やってみたりしたほうが良いと思う。また就活をしていると多くの人との出会いがあると思う。同じく就活をしている者同士いろいろな意見が聞けたりすることもあるので、そうした出会いも大切にしてほしい。

就活が終わると卒論が待っている。せっかく就活が終わった時期に卒論をやるのはなかなか集中できずに大変だった。しかし、私は自分の1番興味のあるテーマで卒論を書けたので卒論を楽しんで書くことができた。そのため、私は卒論の原稿を余裕をもって完成させることができたので、先生にも十分添削をしていただくことができた。自分が少しでも興味のあるテーマを選んだほうが資料収集にも困らないし、原稿などはなるべく早め早めに進めていくと、後で焦らなくて済むかなというのが私の卒論執筆における感想です。